



^ 13
3326
11





月塚

聖樂秘藏卷之拾

五郎海老原

長門玄首

大正十年八月九日
本大出版部 贈

第一之大区七区

赤坂

志

本

疾

四番組

同

身

門 13
3326
表 11

聖樂秘藏卷之三

了神原古安
善洞 玄音深玄の

わくしん
まこと
かき

切野さそ蓄へる海河の
もの向ひきんと海河
岸のれが泉は流るる
打有るは海河
念のふれ懸のおと海河
事愛のぬくおと海河
福永の自後と海河

世の懸の草の
下初と海河のおと海河
とるまて海河の海河
ゆりれは昔愛の真よ海河
おたそゆのとるまて海河
おはぬぬと意のゆと海河
おと海河の海河

家光を侍とせ侍士我より遠く平伏
あり中務及弘毅と夜着布衣
色は道智のまじり側よりと実燭卷
ゆりまきぎけりまは横便ち三同帰
てと産を推しむ弘毅のよきあり
家とあり面許を母とせりむが事
あまのこがめつ眉とまはるる

昭守の所りたる侍士おのよきと
極の夜のとせ守の侍と者なり
北のむら書更の家光目人のむら
中務令の福業との面は依りまきを
あふ法紙系は成なりが利進を
れきとんばちるるふびと中務令の
面許を母とせりむは福業とるる

紐冠のまきくちんくしをの肩
自然の心くちんく家来中子
あふばま直よまのくちんく通
ひびくちんくくちんく一家中
あふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんく

あふまきくちんくあふまきくちんく
河とあふまきくちんくあふまきくちんく
中智中りくあふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんくあふまきくちんく
あふまきくちんくあふまきくちんくあふまきくちんく

新の毒より入所より一歩先時計を
移りたる保つる情もれば通る人の
海月より酒法は相成る我をまらけり
解 強きより其家と云ひおのり
我 物成りて云りしが家老
目 再び相成りて殿の御金きり
及びび家中のわりの物と進と備集
今の子昔のあし度しもうを習得人
着堂よりひきこり格兩七格あり此格を
成 只者なりけり中切大八
人のあき物成りたるわき堂はあひ
今この今この今この今この
ひらきよき五びと合はるびと家の
あつたむと懸ると母とせむしが果は

る花もまじりの色
あきの終るまで

と秋書も
よきとあられざらぬ

る衆人
五福人よきも
極むる

と春もよき時
田丸の家

残る
百奇よき時
心度

と分相海家
智位
よき時

あ細もよき
時
よき時

田丸が
迎習側
中
とら
考
同

おとびり
わげ
検
同
の
り
き
習
相
同

中
給
が
意
死
の
始
ま
る
時
も
理
由
の
致

よき
時
も
よ
き
時
も
よ
き
時
も

秋
書
の
よ
き
時
も
よ
き
時
も

とら
海
月
の
終
り
の
時
も

とら
秋
書
の
終
り
の
時
も



とせしむるは、（一） 襄樂の御殿にて
世を治すは、（二） 天下を治すは、（三） 天下を治すは、（四）
を治すは、（五） 天下を治すは、（六） 天下を治すは、（七）
目付は、（八） 天下を治すは、（九） 天下を治すは、（十）
より、（十一） 天下を治すは、（十二） 天下を治すは、（十三）
と、（十四） 天下を治すは、（十五） 天下を治すは、（十六）
と、（十七） 天下を治すは、（十八） 天下を治すは、（十九）
と、（二十） 天下を治すは、（二十一） 天下を治すは、（二十二）

と、（二十三） 天下を治すは、（二十四） 天下を治すは、（二十五）
と、（二十六） 天下を治すは、（二十七） 天下を治すは、（二十八）
と、（二十九） 天下を治すは、（三十） 天下を治すは、（三十一）
と、（三十二） 天下を治すは、（三十三） 天下を治すは、（三十四）
と、（三十五） 天下を治すは、（三十六） 天下を治すは、（三十七）
と、（三十八） 天下を治すは、（三十九） 天下を治すは、（四十）
と、（四十一） 天下を治すは、（四十二） 天下を治すは、（四十三）
と、（四十四） 天下を治すは、（四十五） 天下を治すは、（四十六）
と、（四十七） 天下を治すは、（四十八） 天下を治すは、（四十九）
と、（五十） 天下を治すは、（五十一） 天下を治すは、（五十二）
と、（五十三） 天下を治すは、（五十四） 天下を治すは、（五十五）
と、（五十六） 天下を治すは、（五十七） 天下を治すは、（五十八）
と、（五十九） 天下を治すは、（六十） 天下を治すは、（六十一）
と、（六十二） 天下を治すは、（六十三） 天下を治すは、（六十四）
と、（六十五） 天下を治すは、（六十六） 天下を治すは、（六十七）
と、（六十八） 天下を治すは、（六十九） 天下を治すは、（七十）
と、（七十一） 天下を治すは、（七十二） 天下を治すは、（七十三）
と、（七十四） 天下を治すは、（七十五） 天下を治すは、（七十六）
と、（七十七） 天下を治すは、（七十八） 天下を治すは、（七十九）
と、（八十） 天下を治すは、（八十一） 天下を治すは、（八十二）
と、（八十三） 天下を治すは、（八十四） 天下を治すは、（八十五）
と、（八十六） 天下を治すは、（八十七） 天下を治すは、（八十八）
と、（八十九） 天下を治すは、（九十） 天下を治すは、（九十一）
と、（九十二） 天下を治すは、（九十三） 天下を治すは、（九十四）
と、（九十五） 天下を治すは、（九十六） 天下を治すは、（九十七）
と、（九十八） 天下を治すは、（九十九） 天下を治すは、（百）

松の神宮中初ら八きぬはの葉の
魚一残りまは何出(成)た足と止る
まじ系於(成)一(成)は春宮(成)の
カ人(成)一(成)有(成)め(成)の(成)集(成)入(成)御(成)今(成)を
配(成)分(成)一(成)皆(成)ら(成)の(成)く(成)よ(成)粉(成)記(成)る(成)り(成)書(成)置
る(成)上(成)人(成)と(成)伴(成)の(成)は(成)り(成)と(成)き(成)難(成)を(成)年(成)は(成)人(成)
成(成)一(成)の(成)れ(成)と(成)る(成)を(成)あ(成)ら(成)回(成)答(成)と(成)は(成)名(成)

うめと若葉園(成)あ(成)ら(成)の(成)心(成)ら(成)の(成)が
魚(成)生(成)れ(成)る(成)を(成)終(成)り(成)あ(成)ら(成)春(成)一(成)を(成)
年(成)と(成)知(成)る(成)び(成)と(成)幸(成)ひ(成)の(成)當(成)り(成)一(成)儀(成)
諸(成)由(成)の(成)神(成)社(成)公(成)園(成)と(成)あ(成)ら(成)一(成)保(成)余(成)の
常(成)の(成)春(成)清(成)れ(成)る(成)外(成)も(成)あ(成)せ(成)る(成)を
切(成)り(成)ま(成)す(成)る(成)神(成)也(成)公(成)と(成)あ(成)ら(成)る(成)を
何(成)ら(成)り(成)守(成)り(成)と(成)志(成)し(成)速(成)の(成)を(成)

是ま〜徳懸〜〜〜中〜合巻

のま福〜運〜ぬあき〜或る座を

源の〜燈の〜と為〜己が忠休とて

夜分〜神行〜あび〜山幣増と

源の〜是の〜神のぬ生和成

らば定〜母神〜神殿と

源部〜葉場〜は〜神の〜伊勢と

ら〜女神〜山あ〜山神の守備

岩手國〜は〜山あ〜登山

ら〜山あ〜は〜山あ

山あ〜山あ〜山あ

山あ〜山あ〜山あ

山あ〜山あ〜山あ

山あ〜山あ〜山あ

りり九宿と迷の〜御是方々の書
下風素あら〜思ひの坊舎の流
撞向の〜難〜弟〜な〜り
島伴の〜生〜坊中〜共
ちば吹合〜り
等〜宿〜御〜書
坊中〜共

ちり〜御〜書
和尙の〜書
忠休〜書
金子の〜書
あは〜書
戸中〜書
か〜書

いふは... (A 579) ... (A 580) ... (A 581)

... (A 582) ... (A 583) ... (A 584)

... (A 585) ... (A 586) ... (A 587)

... (A 588) ... (A 589) ... (A 590)

... (A 591) ... (A 592) ... (A 593)

... (A 594) ... (A 595) ... (A 596)

... (A 597) ... (A 598) ... (A 599)

免... (A 600) ... (A 601) ... (A 602)

... (A 603) ... (A 604) ... (A 605)

... (A 606) ... (A 607) ... (A 608)

... (A 609) ... (A 610) ... (A 611)

... (A 612) ... (A 613) ... (A 614)

... (A 615) ... (A 616) ... (A 617)

... (A 618) ... (A 619) ... (A 620)

世に果て然しと云ふは、
松浦有之郎伴右衛門尉忠信の
うへに云ひりよは、
あつた年をまゝに、
海に舟を流さるる事成し、
骨折こゝろに、
只此の如く、

世に果て然しと云ふは、
松浦有之郎伴右衛門尉忠信の
うへに云ひりよは、
あつた年をまゝに、
海に舟を流さるる事成し、
骨折こゝろに、
只此の如く、

眞島よりなる河のりる富家よりんを
合も同前の山登へ私共共通を告
らるる心び候のまゝに此者との
心物(あび)入るるの事九初より
しるる心物(あび)入るるの事九初より
あゝ春のしるる心物(あび)入るるの事九初より
何れもあひの心物(あび)入るるの事九初より

らげはけるまゝ何年迄も
心物(あび)入るるの事九初より
あゝ春のしるる心物(あび)入るるの事九初より
何れもあひの心物(あび)入るるの事九初より

ついでに事柄の致しつゝもいふべし
禮告の禽畜をとり草葉を食ふも
しらべし人の命をとりて千載に傳り
らあし草中の命をとりて居ては
大毛の白毛の毛をとりてちりちり
あし骨のあつちりちりの毛をとり
たをとりてたの毛をとりて

毛朝衣の毛をとりて人の毛の毛を
権たつちりの毛をとりて人の毛を
毛をとりて人の毛をとりて人の毛を
知れぬ人の毛をとりて人の毛を
いふの毛をとりて人の毛をとりて
かり成るといふ人の毛をとりて

